

## ムカデシバによる畦畔の省力管理に挑戦してみませんか？

はじめに・・・

畦畔管理は、機械化による省力化が困難で、水田管理の中で非常に重労働となっています。そこで近年、カバープランツを利用した管理の省力化が図られています。

カバープランツを使用した場合、取り組み当初は、従来どおりに草刈りを行うよりも資材費や労力の負担が大きくなりますが、カバープランツが畦畔を覆ったのちには、除草作業の省力化できます。カバープランツによる畦畔の省力管理に挑戦してみませんか？



総社市原地区

### 1 栽培方法の紹介

カバープランツの種類には、いろいろな種類がありますが、県内で広く利用されている「ムカデシバ（品種名：ティフ・ブレア）」の栽培方法について紹介します。

栽培法	特徴
セル苗移植 (防草シートマルチ無し)	新規畦畔向き。 移植後に除草作業が多く必要。
セル苗移植 (防草シートマルチ)	シートの設置が行いやすい凸凹の少ない場所で行うこと。 移植後の除草作業が省力的。
張り芝	育苗に労力を要する。 貼り付け後は労力無し。

※雑草がない新規畦畔では、直播きによる栽培方法もある（既存畦畔では雑草に負け、定着が難しい）。

### 2 セル苗移植法（防草シートマルチ無し）

#### (1) 適する条件

- ・新規造成畦畔向き（または、雑草が少ない畦畔向き）

#### (2) 事前の除草

- ・ムカデシバは、雑草と比較して、初期生育が緩慢であるため、雑草が少ない場合でも事前の除草が必要になります。
- ・水田畦畔に登録のある非選択性除草剤を移植1ヶ月前と10日前の2回散布し、既存雑草を完全に枯殺しておきましょう。



定着したセル苗

### (3) 準備する資材

資材名	備考
セル苗	JAを通じて購入が可能。 苗1トレーで、約20㎡分。
肥料	水稲に利用するような緩効性肥料を使用。
除草剤	適用場所(水田畦畔)に登録のある除草剤を使用する。使用基準を遵守すること。

### ○作業の流れ

月		作業内容
4～5月上旬	定植1～2ヶ月前	事前除草(1回目) ・除草剤の散布や草刈りにより、既存の雑草を完全に枯殺する。
6月上旬	定植7～10日前	事前除草(2回目) ・1回目と同様に行う。除草後の残渣は取り除く。
6月中旬	定植(6月上～中旬)	定植 ・6月中旬頃に約30cm間隔で植え穴を開け、緩効性肥料をを10粒程度入れた後、セル苗を定植する。定植後は植え穴には十分灌水する。
6月下旬 7～9月	定植後	定植後 ・活着するまではしばらく灌水を行う。 ・夏場に土壌が乾燥する場合にも灌水を行う。 ・雑草が発生した場合には適宜抜き取る。

## 3 セル苗移植法(防草シートマルチ敷設+セル苗移植)

### (1) 適する条件

・マルチが張りやすい比較的平坦な畦畔。

### (2) 事前の除草

防草シート敷設前に既存雑草は、完全に枯殺する必要があります。

水田畦畔に登録のある非選択性除草剤を移植1ヶ月前と10日前の2回散布し、既存雑草を完全に枯殺しておきましょう。

### (3) 準備する資材

資材名	備考
セル苗	苗1トレーで、約20㎡分。 JAを通じて購入が可能。
肥料	水稲に利用するような緩効性肥料を使用。
防草シート	ポリエチレン製防草シート。

除 草 剤	適用場所(水田畦畔)に登録のある除草剤を使用する。使用基準を遵守すること。
-------	---------------------------------------



防草シート敷設

### ○ 作業の流れ

月		作 業 内 容
4～5月上旬	定植1～2ヶ月前	事前除草(1回目) ・除草剤の散布や草刈りにより、既存の雑草を完全に枯 殺する。
6月上旬	定植7～10日前	事前除草(2回目) ・1回目と同様に行う。除草後の残渣は取り除く。
	定植直前	防草シート設置 ・シート設置後は50cm間隔で金具で固定。
6月中旬	定植(6月上～中旬)	定 植 ・6月中旬頃に、約30cm間隔で植え穴を開け、緩効 性肥料を10粒程度入れた後、セル苗を定植。
6月下旬 7月～9月	定植後	定植後 ・移植後は植え穴には十分灌水する。 ・活着するまではしばらく灌水を行う。 ・夏場に土壌が乾燥する場合にも灌水を行う。 ・雑草が発生した場合には適宜抜き取る。

## 4 張り芝

### (1)適する条件

- ・畦畔の傾斜が緩いこと。
- ・多年生雑草が多いとき。



## (2) 事前の除草

- ・既存雑草は、完全に枯殺除去する必要があります。
- ・水田畦畔に登録のある非選択性除草剤を移植1ヶ月前と10日前の2回散布し、既存雑草は完全に枯殺しておきましょう。

マットの貼り付け

## (3) 準備する資材

資材名	備考
ムカデシバ種子	一箱当たり約2g必要。 JA等で入手可能。
育苗用培土	水稲用の育苗培土を使用。
育苗箱	水稲稚苗用育苗箱を使用。
播種用容器	市販の卓上調味料入れなどを利用。
肥料	水稲に利用するような緩効性肥料を使用。
除草剤	適用場所(水田畦畔)に登録のある除草剤を使用する。使用基準を遵守すること。

## (4) マット苗の育苗(5月中旬頃)

水稲育苗箱に育苗培土を約3kg入れる。



播種作業: 種子を入れた容器を箱の上に振りかけ一箱当たり2g程度播種する。  
※事前に何回振りで2g程度になるかを確認しておくこと。



播種後すぐ水稲育苗用のトンネルを用いて被覆し、乾燥を防ぐ。



播種後発芽が揃った後、2~3週間後トンネルを除去する。



マット苗完成後定植



灌水：発芽後、マット苗が完成するまで適宜灌水を行います。天候の良い日は日に2～3回必要になります。



定植前の苗

### ○作業の流れ

月		作業内容
4～5月上旬	貼り付け1～2ヶ月前	事前除草(1回目) ・除草剤の散布や草刈りにより、既存の雑草を完全に枯殺する。
6月 上旬	定植7～10日前	事前除草(2回目) ・1回目と同様に行い。 ・除草後の残渣は取り除く。
6月 中旬	貼り付け (6月中～下旬)	貼り付け ・マット苗を畦畔へ貼り付け周囲を山土で覆う。貼り付け密度は、3.3枚/m <sup>2</sup> を目安とする。
6月 下旬 7月～9月	貼り付け後	貼り付け後 ・貼り付け後は十分灌水する。 ・活着するまではしばらく灌水を行う。 ・夏場に土壌が乾燥する場合にも灌水を行う。 ・雑草が発生した場合には適宜抜き取る。

### ○倉敷管内での取り組み紹介(総社市山田地区)

総社市山田地区は、今後の水田営農を考え、平成 18 年 11 月に山田営農組合を設立しました。機械化が困難な畦畔の省力管理を目指し、今年度、「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」により、ムカデシバを利用した実証試験に取り組みました。今年度は、夏場の乾燥が著しく、枯死した株もありましたが、枯死せず残った株については、少しずつですが畦畔を被覆しています。



[\(戻る\)](#)